

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q17（職業感染予防策、感染性廃棄物、グラム染色、環境感染、標準予防策、検査室での感染対策、医療器具滅菌、飛沫予防策）

安全キャビネットや滅菌設備のない検査室でのグラム染色を導入するにあたり、感染対策をどのようにすれば良いでしょうか？中央材料室には滅菌設備がありますが、全て清潔にして使用する器具やガーゼ等の滅菌しか行っておりません。検査室は一部屋しかなく、小さな検査室ですが、グラム染色を導入することにしました。院内感染対策上どのようにすればよいかご指導下さい。

- ・検体の取扱いは安全キャビネットがなくても大丈夫でしょうか？
- ・塗抹終了後の検体を滅菌せずに通常の感染性廃棄物入れにいれても大丈夫でしょうか。
不適切であればどのようにすべきでしょうか。（検体は、主に痰・尿・髄液などです）
- ・グラム染色を行える施設基準などがありますでしょうか？
- ・患者は高齢者も多く、今まで結核の確定例はありませんでしたが、結核菌の含まれる検体がでる懸念も払拭はできません。

A17

1. グラム染色を行える施設基準等について

微生物検査に関する施設基準*はありますが、グラム染色のみの施設基準はありません。

グラム染色も微生物検査に含まれますが、培養検査を行わずグラム染色のみであれば一般の検査室で行っても良いと思われませんが、感染対策上、以下の点については特に考慮する必要があります。

- 1) 検査室が単独空調であること。
- 2) 通常の遠心機で遠心を行わないこと（略痰など）。
- 3) 従って、グラム染色は直接塗抹のみとすること。
- 4) 手袋、マスクを着用すること。
- 5) グラム染色はエタノール固定が望ましい。

なお、安全キャビネットについては一般細菌を対象としたグラム染色では必須とはなっていませんが、設置されていることが望ましく、抗酸菌（結核菌）検査やエアロゾルが発生する可能性がある検査では必要です。

2. 検体の処理について

検査後の検体は感染性廃棄物として処理を行えば、検査室での滅菌は不要です。

なお、容器は液体物（尿など）が漏れることのないようプラスチック容器などが望ましいと思われれます。また、グラム染色で使用したスライドガラスは破損の危険もありますので鋭利な廃棄物としての処理が必要です。

3. グラム染色について

グラム染色を始めるにあたり、無菌材料（尿、髄液など）での菌の有無については大きな問題はないと思われれますが、略痰など常在菌が存在する材料、菌種推定、バックグラウンド（好中球、貪食像など）の観察では十分な教育と経験が必要です。

4. 結核菌の含まれる検体の処理について

2に準じて対応して頂いてよいと思います。

*参考文献：臨床検査技師のための病院感染対策の実践ガイド；（社）日本臨床衛生検査技師会発行、2008